

令和 7 年度 第 2 回
藤沢市地域福祉計画推進委員会
議 事 要 旨

I. 開催概要

1. 日 時 2025 年（令和 7 年）10 月 7 日（火）

9 時 30 分～11 時 30 分

2. 会 場 藤沢市役所 本庁舎 5 階 5-1・2 会議室

3. 出席者

（1）委員＝17 名

・会場出席者

石渡 和実、奥田 吉昭、平郡 康江、竹川 由紀、濱田 登美、
小山 八千代、吉田 厚治、山口 燿子、橋本 良子、椎野 幸一、
澁谷 晴子、村上 尚、板原 直枝、津島 徹、松沢 邦芳、沼田 純子

・オンライン出席者

川辺 克郎

4. 議 題

1. 開 会

（1）委員変更（神奈川県高齢者福祉施設協議会 藤沢地区福祉施設連絡会）
について

2. 議 題

（1）今年度のスケジュールについて（ご報告）

【資料 1】次期地域福祉計画の策定に向けた流れについて

（2）地域福祉に関する調査：アンケート調査票最終案のご確認について

【資料 2-1】アンケート調査票最終案・付属資料

【資料 2-2】委員のご意見と主な修正点

【資料 2-3】（参考）前回調査票

（3）地域福祉に関する調査：ヒアリング調査の概要とご協力のお願い事項に
ついて

【資料 3】ヒアリング調査の概要

（4）計画体系図別の取組について（委員の情報提供）

【資料 4】計画の体系図別の取組整理

3. その他

（1）【資料 5】来年度（令和 8 年度）以降の委員会について

(2) 【資料6】国の動向について

4. 閉 会

II. 会議の概要（議事要旨）

1. 開 会

事務局より、委員変更（神奈川県高齢者福祉施設協議会 藤沢地区福祉施設連絡会）及び紹介があり、その後、議事に入った。

2. 議 題

(1) 今年度のスケジュールについて（ご報告）

《資料1について事務局より説明》

～質疑なし～

(2) 地域福祉に関する調査：アンケート調査票最終案のご確認について

《資料2-1、2-2、2-3について事務局より説明》

○椎野委員

防災の面で特に問題になっているが、自治会の加入率が悪くなってきている。防災訓練をしても、自治会加入世帯の人は参加する環境が整っているが、自治会に加入していない世帯の人には、回覧板はもちろん回っていないし、情報などは全く届いていない状態である。このような人たちをどのようにサポートするのか、アンケートとは別の実態としても考えなくてはいけない。民生委員は自治会への入会に関係なく、高齢者に対して見守り活動をしてきているが、防災の面では住んでいる人の名前もよく分からない状況にある。今回の修正を踏まえたアンケートが届き、防災のことを意識していない人の回答がどうなっているかを捉えていくことが重要だと考えている。

○石渡委員長

修正については、委員会の意見が反映されているという評価だが、防災に関しては自治会の加入率が低いことをご指摘いただいた。この点について山口委員から何か補足することがあればお願いします。

○山口委員

善行地区の加入率は44%で13地区の中で最下位である。先週、善行地区の

総合防災訓練を行った。今までは自治会町内会を中心に知らせを出していたが、自治会未加入者も呼び込もうということで、スーパーなど色々なところにポスターを貼った。結果、数える程度ではあるが、自治会町内会に入っていない方の参加があった。これを続けていくことで少しずつ意識が変わっていくのではないかと考えている。

○石渡委員長

加入していない方に対して、地域への関心をどういうふうに持ってもらうかは大事なところだと思う。民生委員の話も出たが、この点について板原委員何かあるか。

○板原委員

民生委員は自治会に加入していない方にも声掛けをするように歩いており、75歳以上の高齢者を訪問する際には、防災情報、防災訓練のチラシなどを自治会の加入に関係なく入れている。ただ、若い方やマンスリーマンションとかにお住まいの方にはあまり情報が届いていないと思う。そういう方が市のホームページをご覧になることなどで、災害時いざというときにはどうしたらいいかということが、何か目に触れるものがあればいいと思う。

○奥田委員

椎野委員から話があった自治会のことで、設問はどういう状況になっているか。自治会に入っていない方がどのような考え方なのかを測るものは、是非入れていただきたい。

○事務局

自治会への加入についての設問は問28にある。加入していない理由については、選択肢が少なかったが、他にも理由があるのではないかと他の委員からも追加のご提案をいただいたので増やした。また、自治会に加入している方には、加入していて良かった点を聞いている。

○椎野委員

自治会環境に対する質問はあるが、実際には藤沢市全体で加入している人が64%。善行地区も御所見地区も残念ながら50%を切っている。どういう政策をとるのか、窓口はいろいろあるのだろうが、すぐに結果が出るような解決策はこれまでほとんどない。未加入者に対する施策を福祉計画でも考える必要があると思うがどうか。

○事務局

市には各セクションがあるが、自治会町内会をはじめ、地域の様々な団体の活動が難しくなっているという状況については、把握もしており、課題として認識している。ただ、椎野委員が言われたとおり、これといった特効薬は今のところないと思っている。自治会町内会は、これまで重要な役割を果たしており、非常に重要な団体だと思っているが、そこだけに頼るということは長期的・将来的には難しいと考えている。視点としては、地域で様々な活動をしていただいている方々や団体がいらっしゃるもので、そういう方々と関係性を作りながらネットワークを広げていくということが大事だと思っている。そういう中で既存の自治会町内会をはじめ団体の皆さんにも、さらに活性化できるような形で取組を進めていきたいと思っている。

○椎野委員

誰一人取り残さない、孤立・孤独をなくすということについて、情報が行き届いていない状況を何とかしなければならない。そこを考えないと、この福祉計画も達成できないと思う。

○石渡委員長

地域への関心というのは、社会福祉協議会でも色々と工夫されていると思うので、村上委員、何か補足することがあればお願いしたい。

○村上委員

自治会町内会の加入率低下という問題は非常に深刻な状況になってきている。情報をどう伝えるかというところについては、今までは回覧とか近所の口コミで広がるのが主流だったが、今はどちらかというと、インターネット、SNSといったものから情報が取れるので、自治会に加入しなくても自分で何とかできるといった意見もある。

ただ一方で、そういう媒体だけでは済まされない問題というのがあって、まさに防災だとか、防犯や地域の安全が大きな問題になっていると考える。顔の見える関係をつくって、例えば安全をつくっていくといった切り口も一つとして、地域のつながりを広げていくことも重要だと思っている。

地域で様々な形のつながり、共通のつながりがあれば、困ったときに福祉関係にどうつなげていくかが考えられる。見守りとか、困った人がいたら助け合うということは、日常生活の様々なつながりの後に醸成されてくると思っている。

現在、自治会町内会の負担が大きくなっていることについては、行政や社協も含めて、負担を減らしていかなくてはならない。そのことと合わせて、情報を多様な形でつなげていく中で、地域とのつながりのために自治会に加入してみんなで活動していこうということを、常に発信し続けることが重要だと思っている。社協としても、地域のつながりや自治会の重要性を常に発信していくことを地道にやっていくしかないと思っている。

○平郡委員

私は善行地区に住んでおり、数少ない自治会の一員としてお世話になっている。20年ぐらい前に善行地区に転入してきたとき、実は自治会への入り方がわからず苦戦した経験がある。

元々鵜沼地区で育っていて、子ども会がとても楽しかったので、自分もそういう環境で子育てがしたいと思っていた。転入したときに自治会に入りたかったが、入り方がわからなかった。組長さんが誰かわからなかったり、市民センターにつなげてもらえなかったりすると、多くの子育て世代はそこで挫折してしまうだろうなと思った。特に子育て世代などは、加入したくない人ばかりではないということを、是非知ってもらえればと思う。

一つの方法としてホームページへの掲載や、窓口を明確化するなど、入会方法の周知強化や入りやすさを高めることが必要だと思う。

○吉田委員

今、話されている自治会町内会への加入とは視点がずれるが、社協が運営している「支え合う地域づくり推進連絡会」での議論とも関連し、このアンケートの間30に、ボランティア活動の参加意欲を高めるものを聞く内容がある。

その中で「活動に応じたポイントや地域通貨の付与」など出てくるが、自治会町内会の中でポイント制度を利用しているところがあり、その目的はあくまでも地域の方々の連携・つながりとしている。

若い人たちが、ポイントやグッズを配るような地域の連携による取組に参加することで、その地域の自治会町内会に参加してみたいという意向が出てくるではと思っている。

今、鵜沼の自治会でも担い手不足になっている状況で、このような取組をしているので、今後注目している。

○石渡委員長

他にアンケートについてご意見があればお願いしたい。

○村上委員

アンケートで今回変更になったところの確認で、問5に続く質問で、介護者を聞いていて、ここで子どもが未成年と成年と分けられているのは、おそらく子ども・若者育成支援推進法やヤングケアラーを意識されているのかと思う。以前のアンケートだと、「主な」となっていたので、主に介護している人が18歳未満なのか、それ以上の人なのかデータとして取りたいと意識されていたのかなと思っていた。

今回の修正で、「主な」というという制限を取ってしまったので、介護している人全部ということになってしまうので、思惑から外れてないかというところを確認したい。

○事務局

変更の理由については、調査上のテクニカルな部分になる。回答では「あてはまるものすべて」を聞いているため、「主な」という回答者の主観で数が変わる選び方をする質問は、回答方法と合致していないというご意見をいただいたので、「主に」を削除した。

ご指摘いただいたとおり、例えば月に1回だけ介護に携わる方まで拾い上げるのか、日常的に介護をされている方だけをデータとして知りたいかは判断だと考える。他の類似調査とかも見て最終的にどちらにするかを専門調査会社の視点も踏まえながら検討させていただきたい。

○石渡委員長

同じのご指摘のところで、子ども（未青年）、子ども（成年）という表現がよいのか、ストレートに息子・娘といった言葉にして未成年か成年に分ける方かもご検討いただきたい。

○事務局

他のアンケートでの聞き方とも比較し、検討する。

○橋本委員

問28の自治会のところに戻るが、自治会の加入未加入に問わず、どういう自治会だったら入りたいと思うかという聞き方であれば、次が見えてきやすいと思う。例えば、防災・防犯というあたりが軸になった自治会なら入りたいという方がいるかも知れない。

○事務局

ご指摘ありがたいが、現在のアンケート修正の過程でも検討するなかで、加入者への良かった点の質問と内容がほとんど重なってしまうことや、未加入者に加入したいと思えることを聞こうとすると、質問のつくりが複雑になってしまうという経過で、現在の形にした。

例えばこの質問ではないところで、地域の支え合いに必要なこと、求めることを聞く質問がある。クロス集計の中で、防災や子育てが地域の方にとって関心が高かったり、つながりが必要な理由として上がってきたりするかもしれない。分析のそのあたりをヒントにするという形にできればと思う。

○山口委員

自治会町内会に何故入らないか聞いたことがあるが、特にメリットがない、役員が回ってくるのがデメリットという答えだった。

災害のとき、避難所の運営は主に自治会町内会の人たちがやるが、自治会の加入未加入に関わらず、避難所には受け入れることになる。メリットがないと言われてしまうのは自治会町内会の役割が知られていないのではと思う。

年をとってくると、役員が回ってくるのがどうしてもつらいし、配布物もいろいろあり、それらを配るのも大変になってくる。やはりどういう自治会だったら入りたいか、メリットが大切である。

また、新規加入について、地区内に新しい家が建っても、そこに役員さんが自治会町内会へのお誘いに行きにくい。自治連からこうすべきとも言いにくいため、困っている。

(3) 地域福祉に関する調査：ヒアリング調査の概要とご協力をお願い事項について

《資料3 ヒアリング調査の概要について事務局より説明》

○川辺委員

新たなヒアリング先について、郵便局などはいいと思う。地域との関わりはかなり強いと思う。特にお年寄りの方は郵便局でいろんな話をしたりしてるいのかを見かけるし、その局長さんや担当の方に何らかの形で話を聞くようなことができればいいのではないかな。

○澁谷委員

ヒアリング先については、既存の地域団体がメインということだが、いわ

ゆる地域団体という形ではなくても、地域で継続的に福祉活動をやっているグループが各地区にはあると思う。そういう人たちにも聞いてみるのもいいと思う。

やはり将来を考えると、自治会町内会や地区社協に関心がある人が少なくなっているので、今後の地域づくり、地域福祉を考えると、既存の団体にとらわれずに、地域に関心のある人がどう考えているのかという視点を持った方がいいのではと思う。

○村上委員

社会福祉協議会としても、地域の企業さんから地域貢献をしたいというお申し出により、連携して事業をさせていただいたりする。例えば子どもの支援を行っている企業さんのご紹介もできる。

もう一つ、例えば、外国の方の介護資格取得養成をやっている学校がある。外国の方が介護の担い手として期待されているところがあると思うが、その人たちも地域の中で暮らしているので、もしかしたら地域の課題みたいなものが聞けるかもしれない。自治会の方で、文化の異なる方との関係がなかなか難しいという話も聞いているので、そういう部分でヒアリングの対象とするのも一つかと思う。また、市内の大きな工場では、外国の方に寮を確保していたりして、地域との交流が薄く、もしかすると労働組合とかの関係者の方が課題を持っているのではないかという話も聞いている。そういったところにも話を聞いてみたいと思う。

○松沢委員

対象について言えば、電車も障がい者割引があったり、タクシー券が配られたりしていて、移動の手段は重要である。そういった交通機関の会社にもヒアリングをしてはどうか。

○事務局

ヒアリング先について本日の資料にとらわれる必要はなく、事務局にはなかった視点でご意見をいただけて良かった。ヒアリングできる団体数については時間や費用の制約もあるが、ご意見を参考に可能な範囲で検討したい。

(4) 計画体系図別の取組について（委員の情報提供）

《資料4 計画体系図別の取組整理について事務局より説明》

《当日資料 情報提供資料について事務局より説明》

《当日資料 情報提供資料について松沢委員より説明》

《当日資料 情報提供資料について椎野委員及び事務局より説明》

《当日資料 情報提供資料について村上委員より説明》

○石渡委員長

村上委員からの視覚障がいの方の同行援護の話があったが、この件について、竹川委員、濱田委員の方で何かあればお願いする。

○濱田委員

私は普段、藤沢市内では白杖を頼りに単独で歩くことが多いが、やはり慣れないところとか、旅行先では同行援護お願いしたりしているので、藤沢市に来られる視覚障がい者のためにも、ぜひヘルパーさんの数を増やしてほしいと思う。定期的じゃない申し込みだと、ヘルパーさんがいないと言われることが多い。

また、せっかく始まった福祉事業において、代筆ができないと言われたことがあった。通常、視覚障がい者は代筆をお願いすることが多いが、制度と私たちの生活の実態というのがつながっていないんということを感じた。せっかく実施している福祉事業が、ちゃんと伝わり機能するためには、その辺のことまで気を配った、制度設計なり運営というのが必要だと思う。

○沼田委員

視覚障がいの方のことで、全盲の方がどんな日常生活をしていて、ヘルパーさんがどのようなガイドの仕方をしているかという紙芝居を予定している。お知らせになってしまうが、そういうところから少しずつ全盲の方が日頃どんなどのように過ごされているのか、どんなことを考えているのか、そんなことも知っていただきたいと思って活動している。翌週には、その方の紙細工の展示をやる。

3 その他

(1) 来年度（令和8年度）以降の委員会について

《資料5 来年度（令和8年度）以降の委員会について事務局より説明》

(2) 国の動向について

《資料6 国の動向について事務局より説明》

～質疑なし～

4 閉 会

事務局より次回の案内をし、閉会。

以上